

御 蔭 祭 — 神のお迎えの神事 —



京都府立総合資料館所蔵

御蔭祭は、現在は下鴨神社で毎年5月12日に行われる恒例のお祭です。毎年、祭神の新霊が御蔭山で生まれ、神社の本殿まで迎えに行くという神事です。神の新たな御霊が生まれるというので「みあれ(御生)」とも呼ばれています。実は、5月15日の葵祭は、この新たに神社に来られた御霊に対して、宮中からお供え物を持っていく行事のことなのです。上賀茂神社でも御阿礼祭という、同じような意味の神事があります。御蔭祭は戦国時代くらいに中断しましたが、江戸時代の元禄年間に葵祭の行列や神社での行事とともに復興します。その後、18世紀の後半には御蔭山の土砂崩れによって新霊が生まれる神社が崩壊し、復興までに70年ほどかかりました。今回紹介している『[宝永花洛細見図](#)』は宝永年間の出版と見られますので、元禄時代に復興してから間もない頃の御蔭祭の姿を描いた貴重な資料です。

(「[総合資料館だより](#)」No.163(2010年4月1日発行)より転載)

(2016年5月12日公開)